

大阪の重粒子線がん治療について

《第11回 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 講演会》

講演会ガイド



日時/平成27年1月24日(土)

場所/大阪市中央公会堂・大集会室

■主催/公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 ■共催/地方独立行政法人大阪府立病院機構
■後援/文部科学省 厚生労働省 大阪府 独立行政法人放射線医学総合研究所 公益財団法人日本対がん協会



黄色い葉は痛くない、切らない、簡単な3つを表しています。
緑の葉はやさしい治療を表しています。
「Quality of Life」というコピーは、
放射線治療がQOL（Quality of Life）の向上に大きく寄与し、
がん治療の新しい時代を切り拓いて行くという決意を表しています。

公開講演会 ～大阪の重粒子線がん治療について～ 開催趣意書

大阪で重粒子線がん治療施設が整備されることになりました。現在、平成 29 年度中の運用開始に向けた準備が進められているところです。

大阪府においても、がんは死因の第一位を占め続けており、わたしたち住民の生命、健康、生活にとって大きな脅威となっています。こうした中、最先端の治療法として関心の高まる重粒子線がん治療が、大阪都心部の身近な場所で受けられることは非常に意義深いことです。

重粒子線がん治療は、その特徴として、機能と形態を温存し、高い QOL（生活の質）を維持し治療できるという長所をもっており、他の治療法と比較して、患者に優しく、年齢に関係なく治療を目指せる優れた治療法といえます。

また、前年度に大手前地域に移転する大阪府立成人病センターの隣接地に整備されることにより、このエリアが大阪のがん治療の拠点となるものと期待されます。

この講演会が、参加される皆様に重粒子線がん治療の内容および大阪プロジェクトの計画をお知らせし、ご理解いただく良い機会となることを期待し、「医用原子力技術研究振興財団」が「大阪府立病院機構」との共催により開催いたします。



主催 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団

共催 地方独立行政法人大阪府立病院機構

後援 文部科学省、厚生労働省、大阪府、独立行政法人放射線医学総合研究所
公益財団法人日本対がん協会

プログラム

公開講演会

《第11回 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 講演会》

大阪の重粒子線がん治療について

開催日時：平成27年1月24日(土)

開催場所：大阪市中央公会堂・大集会室

司会

読売テレビアナウンサー 植村なおみ

13:00～13:20

開会挨拶

公益財団法人医用原子力技術研究振興財団
代表理事・副理事長

辻井 博彦

地方独立行政法人大阪府立病院機構 理事長

遠山 正彌

来賓挨拶

【第1部】基調講演

13:20～14:10

講演1 「からだにやさしい重粒子線がん治療」

独立行政法人放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター長

鎌田 正

14:10～14:50

講演2 「大阪における重粒子線治療施設について」

大阪大学医学系研究科放射線治療学 教授

小川 和彦

14:50～15:00

休憩（10分間）

【第2部】パネルディスカッション

「重粒子線がん治療 大阪プロジェクトへの期待」

15:00～16:30

コーディネーター

(前掲) 小川 和彦

パネリスト（50音順）

医療法人協和会 理事長 北川 透

大阪府立成人病センター放射線治療科 主任部長 手島 昭樹

群馬大学 重粒子線医学研究センター長 中野 隆史

NPO 法人がんと共に生きる会 副理事長・事務局長 濱本 満紀



司会

植村 なおみ

読売テレビアナウンサー

植村 なおみ (うえむら なおみ)

略 歴： 上智大学文学部哲学科 卒業
平成元年 読売テレビ 入社
19年ぶりの女性アナウンサー
定期採用になって、女性アナウンサー第一号

<過去の担当番組>

バラエティ 『おもしろサンデー』 桂文珍・由紀さおり
『マルバレ』 ロンドンブーツ・久本雅美
ワイドショー 『ザ・ワイド』 MC・リポーター
『ミヤネ屋』 曜日MC・リポーター
情報番組 『おはよう！ニュースマガジン』
ニュース 『ニュース スクランブル』 NEWSキャスター
旅番組 『極上の散歩道』 ナビゲーター

<現在の担当番組>

医療番組 『おはよう！ドクター』 日曜 あさ5時50分～
ニュース 『NNNニュース』



辻井 博彦

公益財団法人医用原子力技術研究振興財団
代表理事・副理事長

辻井 博彦 (つじい ひろひこ)

略 歴： 昭和 43 年 北海道大学医学部卒業
昭和 44 年 国立札幌病院放射線科勤務
昭和 47 年 ニューヨーク市 St Vincent Hospital レジデント
昭和 49 年 北海道大学医学部放射線科講師（→助教授）
在職中に米国とスイスで各 1 年間パイ中間子治療プロジェクトに参加
平成 元年 筑波大学臨床医学系教授・陽子線医学利用研究センター長
平成 6 年 (独)放射線医学総合研究所・重粒子治療センター病院長
平成 20 年 同理事
平成 23 年 (独)放射線医学総合研究所フェロー
平成 26 年 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 代表理事・副理事長

表彰など： 平成 13 年 欧州放射線腫瘍学会 (ESTRO) 名誉会員
平成 17 年 高松宮妃癌研究基金学術賞
平成 17 年 科学技術政策研究所研究者賞
平成 18 年 国際粒子線治療研究会 (PTCOG) 会長
平成 25 年 日本放射線腫瘍学会特別功労賞 (Gold Medal)



遠山 正彌

地方独立行政法人大阪府立病院機構
理事長

遠山 正彌 (とおやま まさや)

略 歴： 昭和 47 年 3 月 大阪大学医学部卒業
昭和 47 年 4 月 大阪大学副手 (附属高次神経研究施設神経解剖学病理学)
昭和 47 年 5 月 大阪大学助手 (同上)
昭和 52 年 5 月 フランス・クロードベルナル大学 (生理学教室)
招聘研究員
昭和 55 年 1 月 大阪大学助教授
(附属高次神経研究施設神経解剖学病理学部門)
昭和 55 年 8 月 ハンガリー・センメルweis大学 (解剖学教室) 招聘講師
昭和 61 年 4 月 大阪大学医学部教授 (解剖第二講座、現: 神経機能形態学講座)
平成 11 年 4 月 大阪大学大学院医学系研究科教授
平成 17 年 4 月 大阪大学大学院医学系研究科長および医学部長
平成 21 年 4 月 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学
連合小児発達学研究科・研究科長
平成 24 年 4 月 地方独立行政法人大阪府立病院機構理事長
大阪大学大学院連合小児発達学研究科特任教授
近畿大学東洋医学研究所客員教授
現在に至る



講演1

「からだにやさしい重粒子線がん治療」

鎌田 正

独立行政法人放射線医学総合研究所
重粒子医科学センター長

鎌田 正 (かまだ ただし)

略歴：昭和54年 北海道大学医学部医学科卒業
昭和54年 北海道大学医学部附属病院放射線科医員
昭和56年 文部教官北海道大学助手医学部附属病院（放射線科）
平成3年 文部教官北海道大学講師医学部附属病院（放射線科）
平成6年 科学技術庁放射線医学総合研究所重粒子治療センター
治療診断部治療課医長
平成15年 (独)放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院治療課長
平成20年 (独)放射線医学総合研究所重粒子医科学センター長
千葉大学大学院医学研究院客員教授併任
群馬大学医学部医学科客員教授併任
新潟大学大学院医歯学総合研究科客員教授併任
北海道大学医学部医学科客員教授併任
現在に至る



講演2

「大阪における重粒子線治療施設について」

小川 和彦

大阪大学
医学系研究科放射線治療学 教授

小川 和彦 (おがわ かずひこ)

略 歴： 平成 3年 千葉大学医学部医学科卒業
平成 3年 同医学部放射線医学教室入局
平成 4年 琉球大学医学部放射線医学教室
平成 15年 九州大学生体防御医学研究所分子腫瘍学分野国内研究員
平成 17年 琉球大学医学部附属病院放射線科講師
平成 17年 ハーバード大学マサチューセッツ総合病院放射線腫瘍科
国外研究員
平成 19年 琉球大学医学部附属病院放射線部准教授
平成 23年 大阪大学大学院医学系研究科放射線治療学講座教授
現在に至る

専門分野： 放射線治療学、放射線生物学、分子腫瘍学、医用物理工学

「重粒子線がん治療 大阪プロジェクトへの期待」



コーディネーター

小川 和彦

大阪大学

医学系研究科放射線治療学 教授

小川 和彦 (おがわ かずひこ)

略歴・専門分野については、前頁を参照下さい。

「重粒子線がん治療 大阪プロジェクトへの期待」



パネリスト

北川 透

医療法人協和会 理事長

北川 透 (きたがわ とおる)

略 歴： 昭和 60 年 3 月 大阪大学医学部医学科卒業
 平成 元年 3 月 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
 平成 2 年 4 月 国立呉病院・中国地方がんセンター
 平成 8 年 2 月 米国ピッツバーグ大学外科
 平成 11 年 4 月 大阪大学医学部第一外科 助手
 平成 19 年 11 月 大阪大学医学部附属病院 未来医療センター
 特任准教授
 平成 23 年 4 月 医療法人協和会 協立病院 病院長
 平成 25 年 4 月 医療法人協和会 理事長
 現在に至る

「重粒子線がん治療 大阪プロジェクトへの期待」



パネリスト

手島 昭樹大阪府立成人病センター
放射線治療科 主任部長**手島 昭樹** (てしま てるき)

略 歴： 昭和 55 年 広島大学医学部医学科卒業
昭和 55 年～ 58 年
広島大学・大阪大学医学部附属病院 研修医、研究生、医員
(放射線科)
昭和 58 年～平成 2 年
大阪府立成人病センター 技術吏員、診療主任 (放射線治療科)
平成 2 年～ 6 年
大阪大学医学部助手 (放射線医学教室)
平成 6 年～ 8 年
米国 Fox Chase Cancer Center 客員研究員、客員教授 (放射線腫瘍学部門)
平成 7 年 大阪大学医学部保健学科助教授 (医用工学講座)
平成 15 年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授 (医用物理工学講座)
平成 24 年 大阪府立成人病センター放射線治療科 主任部長 大阪大学名誉教授
現在に至る

「重粒子線がん治療 大阪プロジェクトへの期待」



パネリスト

中野 隆史

群馬大学
重粒子線医学研究センター長

中野 隆史 (なかの たかし)

- 略 歴：** 昭和 54 年 3 月 群馬大学医学部卒業
 昭和 58 年 3 月 群馬大学大学院医学系研究科（内科学系）放射線医学
 専攻修了
 ≪医学博士の学位取得≫
 昭和 61 年 11 月～昭和 62 年 11 月
 米国ハーバード大学 マサチューセッツ総合病院
 放射線医学科 留学（科学技術庁・原子力留学）
- 昭和 58 年 7 月 （独）放射線医学総合研究所 医師 病院部
 平成 12 年 12 月 群馬大学医学部 放射線医学教室 教授
 昭和 15 年 4 月 群馬大学大学院 医学系研究科 腫瘍放射線学講座 教授
 平成 21 年 4 月 群馬大学 重粒子線医学研究センター センター長
 平成 26 年 4 月 群馬大学 未来先端研究機構 統合腫瘍学研究部門
 部門長兼重粒子線治療研究プログラム 研究プログラム統括者
- 表彰など：** 平成 10 年度 日本医学放射線学会優秀論文賞受賞
 平成 11 年度 Eminent scientist of the year, Gold Medal,
 Medical International Research Promotion
 Council 受賞
 平成 11 年度 日本放射線影響協会研究奨励賞受賞
 平成 23 年度 外務大臣表彰受賞

「重粒子線がん治療 大阪プロジェクトへの期待」



パネリスト

濱本 満紀NPO 法人がんと共に生きる会
副理事長・事務局長**濱本 満紀** (はまもと まき)

- 略 歴：平成 11 年 11 月～
がん患者と家族・遺族の会“癌と共に生きる会”設立に参加
～現“NPO 法人がんと共に生きる会”副理事長、事務局長
- 平成 17 年 5 月
『第 1 回がん患者大集会』実行委員長
- 平成 19 年 7 月～23 年 3 月
大阪府がん対策推進計画協議会協議委員
- 平成 22 年 10 月～
財団法人大阪成人病予防協会評議員
- 平成 22 年 12 月
大阪がんええナビ制作委員会設立、代表就任
- 平成 23 年 3 月～
府民目線のがん総合情報サイト『大阪がんええナビ』公開
- 平成 23 年 4 月～25 年 3 月
大阪府がん対策推進委員会委員
- 平成 23 年 5 月～
財団法人大阪対がん協会評議員
- 平成 25 年 5 月～
NPO 法人大阪がんええナビ制作委員会設立、理事長就任
- 平成 25 年 6 月～
厚生労働省がん対策推進協議会委員

第11回 医用原子力技術研究振興財団講演会

ご協力ありがとうございます。

本講演会の開催に際しまして、ご協力・ご支援をいただきました
団体・企業様に厚く御礼申し上げます。

(敬称略 順不同)

協賛

医療法人協和会
グリーンホスピタルサプライ株式会社
株式会社日立製作所

寄付

富士フイルムR I ファーマ株式会社
公益社団法人日本アイソトープ協会

広告

株式会社日立製作所
富士電機株式会社
グリーンホスピタルサプライ株式会社
株式会社東芝
安西メディカル株式会社

みんなが お医者さんになれたらいいのに。

そうだね。でも、健康の問題はとても大きいから、
お医者さんだけで全てを抱えるものではないのです。
高齢化社会、生活習慣病、医療費の増大など、健康に関わる課題はさまざま。
だから日立は、先端のITと医療システムを駆使して、
予防から検査・診断、治療、介護などのプロセスで、
より良いヘルスケアソリューションを提供します。
誰もが健康に暮らせる社会をつくりたい。それが、日立のソーシャルイノベーション。

social-innovation.hitachi.com

SOCIAL INNOVATION
**IT'S OUR
FUTURE**



放射線管理のベストパートナー

富士電機は、放射線計測に関する豊富な知識と技術で、放射線利用施設の計画立案、設計・施工、運用、メンテナンスに至るまで、お客様を一貫してサポートします。

取扱製品

放射線管理システム

放射線モニタリングシステム

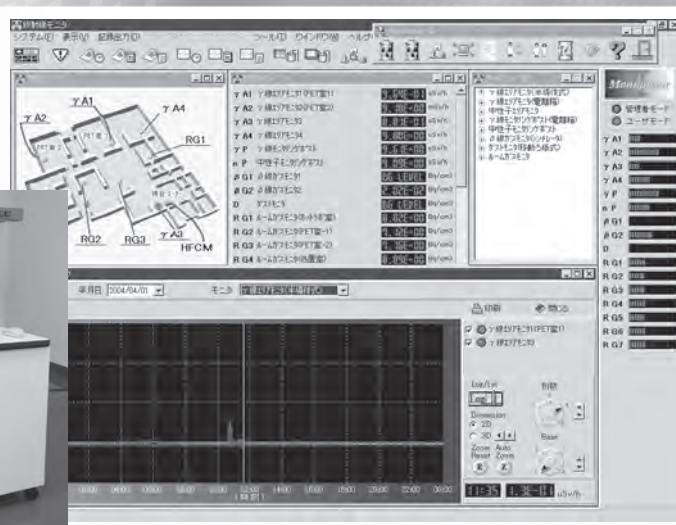
R I 排水管理システム

出入管理システム

非密封 R I 管理システム

従事者管理システム

インターロックシステム



測定器

各種サーベイメータ

個人線量計 / 環境線量計

モニタリングポスト

ホールボディカウンタ

体表面モニタ

食品放射能検査システム

その他



富士電機株式会社 産業インフラ事業本部 計測制御システム事業部 放射線システム部

〒191-8502 東京都日野市富士町 1 番地 TEL 042 - 585 - 6024

<http://www.fujielectric.co.jp/> Email fric-info@fujielectric.co.jp



“生命を守る人の環境づくり”を、
これからも。

地域中核病院や大学付属病院をはじめとする大型医療機関のリモデル(建替・再整備)。
最新のリモデル・医療プロジェクトはグリーンホスピタルサプライへ、ご相談ください。



[トータルパックシステム事業]

病院リモデルにおいて、豊富な知識と経験に基づくコンサルティングやヘルスケアエンジニアリングを通じ、企画構想段階から、医療設備・医療機器・情報ネットワークの整備及び調達、開業後の経営支援等、病院運営に必要なあらゆるバリューを提供してまいります。

〈設備提案・設計施工〉最先端の設備・機器(ICU・CT・手術室・無菌病室等)のご提案／医療設備設計支援等
〈医療機器選定支援業務〉医療設備機器の選定支援・販売・搬入据付等

[メディカルサプライ事業]

日々使用される診療材料、医療用消耗品などの販売や管理・調達などを一括で請負い、現場スタッフが医療に集中できる環境づくりを継続して行います。

TOSHIBA
Leading Innovation >>>



安心、安全、快適な社会。 Human Smart Community

by lifenology - the technology life requires

テクノロジーを超えて。ビジネスを超えて。

東芝は、technologyだけではなく、暮らしや生命に喜びをもたらす technology=lifenologyを提案します。

エネルギーの効率を、世界各地で上げていく。ストレージで、スマート化を加速させていく。

ヘルスケアで、健康で生き生きとした毎日を実現していく。

技術と技術をかけあわせ、世界中の人を笑顔でつなぎ、暮らしを心地よさでつなぐ。

安心、安全、快適な、Human Smart Communityへ。

さあ、あたらしい世界に向かって。東芝と、ともに。



<http://lifenology.toshiba.co.jp/>

<http://www.anzai-med.co.jp>

Respiratory Gating System is essential to the imaging diagnoses and the radiation therapy. In the imaging diagnoses, the respiration-gated image provides the blur-corrected image, and in the radiation treatment it minimizes the area of the treatment target tumor which moves due to patient respiration.

At AAPM Report No. 92 written by AAPM Task Group 76 in July 2006, it is reported that the first study of the respiration-gated radiation therapy was conducted in Japan. The study was conducted at University of Tsukuba Hospital. In 1989 ANZAI, in collaboration with University of Tsukuba Hospital, developed the Respiratory Gating System for the first time in the world. The AZ-733V, a world-standard model of the Respiratory Gating System, utilizes "ANZAI BELT" as the respiratory sensor which has been used from the original model. Now, we would like to introduce the new model, AZ-733VJ, with the additional safety function and the new type of respiratory sensor "Laser Sensor".

What is Respirator Gating System



Anzai Medical, Co., Ltd

Add:3-6-25 Nishi-Shinagawa Shinagawa-Ku Tokyo 141-0033, Japan

Tel: +81-3-3779-1611 FAX: +81-3-3779-6606

E-mail: headoffice@anzai-med.co.jp Web: <http://www.anzai-med.co.jp>

メ モ

A series of 18 horizontal dashed lines for handwriting practice.

メ モ

メ モ

Handwriting practice lines consisting of 18 horizontal dashed lines.



公益財団法人医用原子力技術研究振興財団

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル5階

TEL:03-5645-2230 FAX:03-3660-0200

<http://www.antm.or.jp>

新しい情報はホームページに掲載いたしますのでご覧ください。